

●林木遺伝資源の収集・保存

〔福島県小野町への里帰り〕

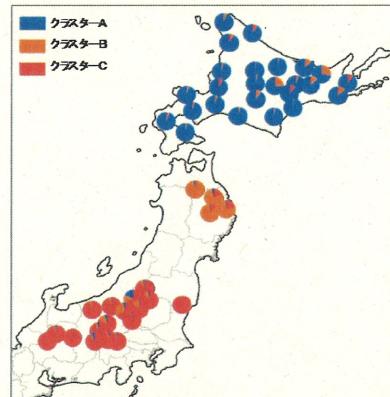
東日本大震災発生前の平成21年10月に「林木遺伝子銀行110番」の申請を受けていた、福島県小野町の町指定の天然記念物「菅原神社の夫婦杉」、「高山しだれ桜」、「諏訪神社のケヤキ」等7個体の後継苗木を平成24年11月10日の復興イベント「復興元年小町ふれあいフェスタ」で里帰りさせました。



復興イベントでの里帰り
(福島県小野町)

〔シラカンバの地理的変異〕

シラカンバ種苗の適正な配布区域の策定に向けた基礎情報を集積するため、中部以北の日本各地に分布するシラカンバ天然林の個体から採取したDNAを分析しました。細胞核のDNAを分析したところ、全体的に北海道の集団は本州の集団に比べ遺伝的多様性が高いこと、北海道、東北日本及び関東・中部日本の3つの地域間で集団の持つ遺伝子が大きく異なることが明らかになりました。



核DNA分析によるシラカンバ天然林の
遺伝的組成の解析

〔小笠原諸島の希少樹種の保存〕

林木育種センターでは、関東森林管理局と共同で小笠原諸島の母島に、母島産の希少な遺伝資源を保存するための保存林を造成しています。保存対象樹種はセキモンノキ、オオヤマイチジク、オガサワラグワなど13樹種173系統に及びます。小笠原諸島では、導入種のアカギが野生化した上に繁茂し、固有の植生を駆逐している場所が多く見られます。平成14年から開始した保存事業で10年にわたってアカギの駆除をつづけた結果、現在では保存林内の多くのアカギは駆除され、保存個体は順調に成長しています。



小笠原母島希少樹種等遺伝資源保存林内に
植栽されているセキモンノキ(絶滅危惧種)